

問19 補問 選択肢7

問19 選択肢⑦ 医療チームで意見がわかれる こと	職場					合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩 和ケア病棟を 除く）	療養病床（介 護療養型医療 施設を含む）	その他（訪問看 護ステーション 含む）	
×	321 94.41(%)	53 74.65(%)	462 92.03(%)	158 94.05(%)	56 88.89(%)	1050
○	19 5.59(%)	18 25.35(%)	40 7.97(%)	10 5.95(%)	7 11.11(%)	94
合計	340	71	502	168	63	1144

欠損値の度数 = 219

対象者属性：施設別内訳

対象者：医師

	施設合計	診療所	緩和ケア病棟	病院
調査人数	3147	1034	113	2000
回答者	1363	425	78	714
回答率	43.3%	41.1%	69.0%	35.7%

性別	施設合計		診療所		緩和ケア病棟		一般病床		療養病床	
男性	1182	86.7%	394	92.7%	70	89.7%	496	93.4%	148	80.9%
女性	115	8.4%	29	6.8%	8	10.3%	34	6.4%	34	18.6%
無回答	66	4.8%	2	0.5%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.5%

年齢	施設合計		診療所		緩和ケア病棟		一般病床		療養病床	
20～29歳	23	1.7%	0	0.0%	1	1.3%	18	3.4%	3	1.6%
30～39歳	178	13.1%	23	5.4%	18	23.1%	107	20.2%	23	12.6%
40～49歳	412	30.2%	103	24.2%	30	38.5%	203	38.2%	51	27.9%
50～59歳	359	26.3%	125	29.4%	24	30.8%	132	24.9%	55	30.1%
60～69歳	185	13.6%	79	18.6%	4	5.1%	56	10.5%	28	15.3%
70歳以上	140	10.3%	95	22.4%	1	1.3%	14	2.6%	22	12.0%
無回答	66	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.5%

## 第6章－2

### 終末期医療に関する調査（平成15年）再分析

#### －施設別の実態と取り組み そのII 看護職員による回答－

国立保健医療科学院 林 謙治 児玉知子、熊川寿郎  
久留米大学バイオ統計センター 角間辰之

前章「医師による回答の分析」に引き続き、施設別の看護職員による回答結果について分析を行った。付表は資料IIとして掲げたので参照していただきたい。ここでは結果のみについて記述する。なお、表の見方であるが、補問は主問の限定された選択肢について質問したものであり、また、○印は複数回答の場合にある選択肢を選んだ度数を表している。

#### 集計結果

##### 1. 終末期医療への関心・患者の同意

「安楽死」「尊厳死」「リビングウィル」について「非常に関心がある」と答えているのは緩和ケア病棟の看護職員で59%であった。一般病院・療養病床の看護職員は45-50%程度であった(問1)。施設間の差は医師に比べ小さかった。病気の告知は「患者本人の状況を見て患者に説明するかどうか判断する」が最も多く、施設間の差がない(60-70%)。この点医師の場合は緩和ケア病棟を除いて「家族に説明する」割合がもっとも高く50%を超えているのと比べ、きわだった違いをみせている(問4)。「患者や家族が納得のいく説明ができています」と答えている看護職員は一般病院・診療所では10%以下と低く、緩和ケア病棟でも8%程度に過ぎない。この点医師とは異なった回答パターンになっているが役割の違いによる差と推察される。ほとんどの施設は「ある程度できています」と答えており60%前後であった(問5)。治る見込みのない病期に罹患した場合、その治療方針を決定するに当たり、先ず意見を聞く対象は緩和ケア病棟と他の施設で大きな開きがある。緩和ケア病棟では「患者本人に聞く」が55%であるが診療所・一般病院では10-18%に過ぎなかった、また、緩和ケア病棟では「家族に聞く」は少なく1.2%に過ぎない(問6)。

##### 2. 延命治療

患者が痛みを伴い、治る見込みがなく死期が迫っている場合、「単なる延命だけの医療はやめたほうがよい」という意見がいずれの施設も過半数を超え、施設間の差もあまりみられないが、「つづけるべき・やめるべきである」と言い切る割合は医師に比べ

低い傾向にあった（問7）。それではどのように延命治療を中止するかについて、「苦痛の軽減に重点」としているのが8割以上で緩和ケア病棟では特に高く95%であった。「延命医療を中止し、自然死を迎えさせる」は緩和ケア病棟はめだって低く（4.1%）、それ以外の施設では10-15%程度であり、また、「積極的手段によって生命を短縮」はほとんどなかった（問7補問1）。

### 3. 療養生活・在宅ケア

終末期に苦しむ患者に療養生活のアドバイスとして、緩和ケア病棟の看護職員は「緩和ケア病棟もしくは自宅との併用」を勧める割合が高く（83%）、一般病院の看護職員は「自宅と病院の組み合わせのほか、緩和ケア病棟の併用」を勧める割合が高い（82%）（問8-1）。最後まで「自宅療養は難しい」とする施設は緩和ケア病棟・訪問看護ステーションでは低く、それぞれ22%、30%であった。それ以外の施設ではほとんど50%を超えている（問8-2）。自宅療養は難しいとする理由は一般病院では「家族の負担」、「急変時の不安」、「往診医がない」、「訪問看護体制の不備」を多く挙げており、診療所も「往診医がない」を除いて同様な傾向を示している（問8-2補問選択肢1-11）。

### 4. 疼痛緩和

WHOの疼痛治療法について「内容をよく知っている」割合は緩和ケア病棟では59%（医師は85%）であったが、その他の施設では5%以下と低く（医師は6-17%とやはり低い）、「ある程度知っている」は30%と施設間の差が少なかった（問9-1）。モルヒネの有効性・副作用について説明できる割合は緩和ケア病棟ではほぼ76%であり（医師は97%）、他の施設では6-27%と幅が大きい（医師は27-49%とやはり幅が大きい）（問9-2）。

### 5. 植物状態の延命治療

「持続的植物状態の単なる延命治療はやめたほうがよい、もしくはやめるべきである」が大勢の意見である。ただし、医師に比べ「やめるべきである」という断定的意見は少ない（問11）。延命中止の判断は「生命の助かる見込みがないと診断されたとき」は20%台が多く、さらに「死期が迫っている」という条件が加わると肯定する意見がさらに高まり46-64%であった。（問11補問1）。そして延命治療中止容認者のほとんどがこの段階に至っての人工呼吸器の中止を認めている（問11補問2）。なお、経管栄養、点滴、床ずれの手当て、全身清拭、喀痰吸引、留置カテーテル導入、眼の乾燥予防、酸素吸入の医療行為についてはおおむね肯定的であり（問11補問3、選択肢2,9,12,13,14,15,16）、他方、中心静脈栄養経由の高カロリー輸液、自動血圧計による血圧監視、心電図モニター、気管支切開、心臓マッサージ、昇圧剤の投与、抗生剤の投与、輸血についてはどちらかと言えば否定的な傾向であった（問11補問3、選択肢3,4,5,6,7,8,11）。

### 6. リビングウィル

「リビングウィルに従って治療方針を決める」考え方に賛成する看護職員は医師の場合と同様勤務施設にかかわらず大勢を占めた（問14-1）。ただし、「法律によって有効性を担保するか」それとも「家族と相談すればよい」については後者のほうが若干優勢であったが意見が分かれた（医師の場合も同様）（問14-1補問1）。リビングウィルの

内容に反対する家族・代理人がいた場合、おおむね「家族・代理人の意見に従うもしくはやむを得ない」として容認するが大半を占め、施設間の差はないが、約28%の看護職員はそのときの状況によるとしている（問14-3）。そして代理の意思表示は配偶者がよいとするのが大半であった（問14-3 補問4,5）。「単なる延命治療を続けるべきか中止するべきか」について医師と患者の間で「十分な話し合いが行われている」としているのは10%程度であった（医師の回答でも同程度）（問15）。

## 7. 医療従事者間の意見の相違

医師と看護介護職員間の意見の相違がおこったことがあるかどうかの質問について、緩和ケア病棟が一番多く（84%）、医師による回答とほぼ同率であった。一般病院でも64%に達していたのに比べ医師は46%と受け止め方に開きがあった。診療所は31%であった（問16）。その際の意見調整は医療従事者サイドで行うよりも「患者本人もしくは家族の意見にもとづく」としているほうが大多数（53-70%）であったが「主治医の意見にもとづく」（27-41%）が多かった（医師は8-18%）。（問16 補問選択肢1-6）。

## 8. 終末期医療の重点課題

終末期医療の重点課題として挙げられたのは「痛みなど緩和方法の普及」が最も多く、次いで「チーム医療の充実」が挙げられており、「治療・ケアに関する看護師と患者・家族との十分な話し合い」と「精神科医やカウンセラーの関与」も高率であった。（問17 選択肢1-8）。

## 9. 終末期医療の普及・充実への要望

終末期医療の普及にあたって充実していくべき内容として、「相談体制の充実」、「在宅ケアの整備」、「卒前・卒後・生涯教育」、「緩和ケア病棟の充実・拡充」、「医療従事者の確保」に対する要望が多く、そのほか、「市民教育」、「リビングウィルの法整備」に関する要望が高かった。「一般病棟でも十分な終末期医療が行えるようにする」についての要望は緩和ケア病棟から強く出されているが他の施設はむしろ低率であった。また、終末期医療の経済的評価についても緩和ケア病棟のほかに一般病棟や訪問看護ステーションから強い要望がある、この点について医師の回答とやや異なる意見がみられた（問18 選択肢1-10）。

## 10. 終末期医療の困難

ほとんどの施設で多かれ少なかれ悩みや疑問を感じているようである（問19）。病名の告知や症状の説明に困難を感じている施設が多く、緩和ケア病棟でも38%に達するが一般病院・診療所では医師に比べ若干低い（38-55%程度）（問19 選択肢1）。ほとんどの施設の看護職員は「痛み等の緩和に困難」を感じている（58-67%）（問19 選択肢2）。「在宅医療の体制が不十分」と訴えるのは施設間の差がなく50%を超えている（問19 選択肢5）。興味深いことに「延命治療の中止」に困難を感じている割合は医師と同様それほど高くないのは実際ジレンマに陥る場面がすくないせいであろうか（問19 選択肢6）。

## 考察

集計結果全体を通してみると、緩和ケア病棟は設立主旨からして当然であるが、医師による回答の場合と同様に他の施設に比べ終末期医療への取り組みに熱心であり、一定水準の技術を持っていると評価できよう。また、一般病院・診療所等の施設については終末期に対応する設備、技術、体制が必ずしも整っていないために困難を感じている事柄が少なくない。ただし、医師の場合と違うのは施設間格差が極端に大きいということが少ない。また、看護職員という立場もあって治療方針について医師ほど強い意見が述べられていないが、ケア面に関して確固たる意見を持っていることが多い。

## 資料 II

### 問1 (終末期医療に対する一般的な意識)

最近、終末期医療に関して「安楽死」「尊厳死」「リビングウィル(書面による生前の意思表示)」などの問題が話題になっていますが、あなたはこれらに関心がありますか。(○は1つ)

問1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
非常に関心がある	109 31.78(%)	49 59.04(%)	244 44.94(%)	125 48.45(%)	157 50.32(%)	66 36.67(%)	750
まあ関心がある	210 61.22(%)	29 34.94(%)	282 51.93(%)	122 47.29(%)	145 46.47(%)	106 58.89(%)	894
あまり関心がない	22 6.41(%)	4 4.82(%)	15 2.76(%)	10 3.88(%)	10 3.21(%)	7 3.89(%)	68
ほとんど(全く)関心がない	2 0.58(%)	1 1.2(%)	2 0.37(%)	1 0.39(%)	0 0(%)	1 0.56(%)	7
合計	343	83	543	258	312	180	1719

欠損値の度数 = 72

### 問4 (告知する対象者)

あなたの担当している患者が見込みのない病期に罹患した場合、その病名や病期の見通し(治療期間、余命)について、まずどなたに説明しますか。(○は1つ)

問4	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
患者本人に説明する	21 6.09(%)	24 29.27(%)	51 9.38(%)	21 8.11(%)	35 11.15(%)	13 7.43(%)	165
患者本人の状況を見て患者に説明するかどうか判断する	219 63.48(%)	53 64.63(%)	378 69.49(%)	171 66.02(%)	218 69.43(%)	118 67.43(%)	1157
家族に説明する	95 27.54(%)	3 3.66(%)	104 19.12(%)	58 22.39(%)	54 17.2(%)	40 22.86(%)	354
患者本人、家族ともに説明しない	8 2.32(%)	1 1.22(%)	10 1.84(%)	8 3.09(%)	3 0.96(%)	4 2.29(%)	34
わからない	2 0.58(%)	1 1.22(%)	1 0.18(%)	1 0.39(%)	4 1.27(%)	0 0(%)	9
合計	345	82	544	259	314	175	1719

欠損値の度数 = 72

### 問5 (告知、インフォームドコンセント)

あなたは病名や病気の見通しについて、患者や家族が納得のいく説明ができていると考えていますか。(○は1つ)

問5	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
できている	27 7.85(%)	7 8.43(%)	18 3.31(%)	18 6.92(%)	5 1.59(%)	11 6.15(%)	86
ある程度できている	209 60.76(%)	60 72.29(%)	345 63.42(%)	154 59.23(%)	122 38.85(%)	102 56.98(%)	992
できていない	60 17.44(%)	15 18.07(%)	153 28.13(%)	68 26.15(%)	163 51.91(%)	41 22.91(%)	500
わからない	48 13.95(%)	1 1.2(%)	28 5.15(%)	20 7.69(%)	24 7.64(%)	25 13.97(%)	146
合計	344	83	544	260	314	179	1724

欠損値の度数 = 67

### 問6 (治療方針の決定)

あなたの担当している患者が治る見込みのない病期に罹患した場合、その治療方針を決定するに当たり、先ずどなたの意見を聞かれますか。(○は1つ)

問6	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
患者本人の意見を聞いた方がよい	49 14.24(%)	46 55.42(%)	98 18.01(%)	33 12.69(%)	48 15.29(%)	19 10.56(%)	293
患者本人の状況を見て誰にするかを判断した方がよい	242 70.35(%)	35 42.17(%)	388 71.32(%)	185 71.15(%)	244 77.71(%)	133 73.89(%)	1227
家族の意見を聞いた方がよい	43 12.5(%)	1 1.2(%)	55 10.11(%)	41 15.77(%)	19 6.05(%)	24 13.33(%)	183
患者本人、家族ともに意見を聞かない方がよい	3 0.87(%)	1 1.2(%)	3 0.55(%)	1 0.38(%)	2 0.64(%)	2 1.11(%)	12
わからない	7 2.03(%)	0 0(%)	0 0(%)	0 0(%)	1 0.32(%)	2 1.11(%)	10
合計	344	83	544	260	314	180	1725

欠損値の度数 = 66

### 7 (延命医療への意識)

あなたの担当している患者が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)場合、単なる延命だけの医療についてどのようにお考えになりますか。(○は1つ)

問7	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
単なる延命医療であっても続けられるべきである	54 15.74(%)	0 0(%)	37 6.81(%)	20 7.69(%)	19 6.05(%)	16 8.89(%)	146
単なる延命医療はやめたほうがよい	200 58.31(%)	57 69.51(%)	379 69.8(%)	176 67.69(%)	211 67.2(%)	124 68.89(%)	1147
単なる延命医療はやめるべきである	30 8.75(%)	17 20.73(%)	74 13.63(%)	43 16.54(%)	45 14.33(%)	20 11.11(%)	229
わからない	59 17.2(%)	8 9.76(%)	53 9.76(%)	21 8.08(%)	39 12.42(%)	20 11.11(%)	200
合計	343	82	543	260	314	180	1722

欠損値の度数 = 69

### 問7 補問1 (緩和ケアへの意識)

(問7で2か3をお選びの方に) この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような方法が考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

問7 補問1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法	193 83.91(%)	70 95.89(%)	400 88.5(%)	182 83.11(%)	221 87.01(%)	121 84.62(%)	1187
単なる延命医療を中止して、自然に死期を迎えさせる様な方法	34 14.78(%)	3 4.11(%)	45 9.96(%)	33 15.07(%)	28 11.02(%)	21 14.69(%)	164
あらゆる苦痛から解放され安楽になるために、医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法	3 1.3(%)	0 0(%)	6 1.33(%)	2 0.91(%)	5 1.97(%)	0 0(%)	16
わからない	0 0(%)	0 0(%)	1 0.22(%)	2 0.91(%)	0 0(%)	1 0.7(%)	4
合計	230	73	452	219	254	143	1371

欠損値の度数 = 420

問8-1 (終末期医療の医療従事者の方針) <職場別に frequency を算出>

あなたが担当している患者が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定) 場合、療養生活はどこを薦めますか。(○は1つ)

問8-1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
なるべく早く今まで通った(又は現在入院中の)医療機関に入院を薦める	13 3.8(%)	0 0(%)	14 2.58(%)	7 2.68(%)	1 0.32(%)	9 5.06(%)	44
なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげることを目的とした病棟)に入院を薦める	58 16.96(%)	23 27.71(%)	58 10.7(%)	42 16.09(%)	13 4.14(%)	23 12.92(%)	217
自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院を薦める	70 20.47(%)	2 2.41(%)	139 25.65(%)	53 20.31(%)	55 17.52(%)	26 14.61(%)	345
自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院を薦める	160 46.78(%)	47 56.63(%)	260 47.97(%)	129 49.43(%)	139 44.27(%)	95 53.37(%)	830
自宅で最期まで療養を薦める	10 2.92(%)	0 0(%)	26 4.8(%)	7 2.68(%)	44 14.01(%)	8 4.49(%)	95
専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的な治療を薦める	3 0.88(%)	0 0(%)	2 0.37(%)	0 0(%)	0 0(%)	0 0(%)	5
老人ホームに入所を薦める	0 0(%)	0 0(%)	0 0(%)	2 0.77(%)	0 0(%)	0 0(%)	2
その他	16 4.68(%)	10 12.05(%)	39 7.2(%)	19 7.28(%)	53 16.88(%)	15 8.43(%)	152
わからない	12 3.51(%)	1 1.2(%)	4 0.74(%)	2 0.77(%)	9 2.87(%)	2 1.12(%)	30
合計	342	83	542	261	314	178	1720

欠損値の度数 = 71

問8-2 (終末期医療における在宅ケアの実情評価)

自宅で最後まで療養できるとお考えになりますか。(○は1つ)

問8-2	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
実現可能である	73 21.47(%)	41 50.62(%)	174 32.83(%)	63 24.61(%)	200 64.52(%)	47 27.33(%)	598
実現困難である	197 57.94(%)	25 30.86(%)	288 54.34(%)	152 59.38(%)	68 21.94(%)	88 51.16(%)	818
わからない	70 20.59(%)	15 18.52(%)	68 12.83(%)	41 16.02(%)	42 13.55(%)	37 21.51(%)	273
合計	340	81	530	256	310	172	1689

欠損値の度数 = 102

問8-2 補問 (不可能な原因) <職場別に frequency を算出>

(問8-2で2をお選びの方へ) 実現できないとお考えになる具体的な理由はどんなことでしょうか。お考えに近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

問8-2 補問 選択肢1

問8-2 補問 選択肢① 往診してくれるかかりつけの 医師がいない	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩 和ケア病棟を 除く)	療養病床 (介 護療養型医療 施設を含む)	訪問看護ス テーション	その他 (具体 的に)	
×	164 83.67(%)	12 48(%)	157 55.28(%)	104 69.8(%)	34 50.75(%)	55 62.5(%)	526
〇	32 16.33(%)	13 52(%)	127 44.72(%)	45 30.2(%)	33 49.25(%)	33 37.5(%)	283
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢2

問8-2 補問 選択肢② 訪問看護体制が整っていない	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩 和ケア病棟を 除く)	療養病床 (介 護療養型医療 施設を含む)	訪問看護ス テーション	その他 (具体 的に)	
×	153 78.06(%)	13 52(%)	159 55.99(%)	102 68.46(%)	40 59.7(%)	59 67.05(%)	526
〇	43 21.94(%)	12 48(%)	125 44.01(%)	47 31.54(%)	27 40.3(%)	29 32.95(%)	283
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢3

問8-2 補問 選択肢③ 訪問介護体制が整っていない	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩 和ケア病棟を 除く)	療養病床 (介 護療養型医療 施設を含む)	訪問看護ス テーション	その他 (具体 的に)	
×	170 86.73(%)	19 76(%)	213 75(%)	126 84.56(%)	59 88.06(%)	73 82.95(%)	660
〇	26 13.27(%)	6 24(%)	71 25(%)	23 15.44(%)	8 11.94(%)	15 17.05(%)	149
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢4

問8-2 補問 選択肢④ 24時間相談にのってくれると ころがない	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩 和ケア病棟を 除く)	療養病床 (介 護療養型医療 施設を含む)	訪問看護ス テーション	その他 (具体 的に)	
×	145 73.98(%)	18 72(%)	152 53.52(%)	98 65.77(%)	51 76.12(%)	55 62.5(%)	519
〇	51 26.02(%)	7 28(%)	132 46.48(%)	51 34.23(%)	16 23.88(%)	33 37.5(%)	290
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢5

問8-2 補問 選択肢⑤ 介護してくれる家族がない	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	149 76.02(%)	11 44(%)	188 66.2(%)	109 73.15(%)	49 73.13(%)	56 63.64(%)	562
○	47 23.98(%)	14 56(%)	96 33.8(%)	40 26.85(%)	18 26.87(%)	32 36.36(%)	247
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢6

問8-2 補問 選択肢⑥ 介護してくれる家族に負担がかかる	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	39 19.9(%)	2 8(%)	70 24.65(%)	25 16.78(%)	14 20.9(%)	24 27.27(%)	174
○	157 80.1(%)	23 92(%)	214 75.35(%)	124 83.22(%)	53 79.1(%)	64 72.73(%)	635
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢7

問8-2 補問 選択肢⑦ 症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	86 43.88(%)	12 48(%)	132 46.48(%)	65 43.62(%)	45 67.16(%)	34 38.64(%)	374
○	110 56.12(%)	13 52(%)	152 53.52(%)	84 56.38(%)	22 32.84(%)	54 61.36(%)	435
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢8

問8-2 補問 選択肢⑧ 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	133 67.86(%)	16 64(%)	177 62.32(%)	84 56.38(%)	52 77.61(%)	52 59.09(%)	514
○	63 32.14(%)	9 36(%)	107 37.68(%)	65 43.62(%)	15 22.39(%)	36 40.91(%)	295
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢9

問8-2 補問 選択肢⑨ 居住環境が整っていない	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	155 79.08(%)	13 52(%)	208 73.24(%)	118 79.19(%)	51 76.12(%)	54 61.36(%)	599
○	41 20.92(%)	12 48(%)	76 26.76(%)	31 20.81(%)	16 23.88(%)	34 38.64(%)	210
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢10

問8-2 補問 選択肢⑩ 経済的に負担が大きい	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	134 68.37(%)	19 76(%)	205 72.18(%)	114 76.51(%)	42 62.69(%)	60 68.18(%)	574
○	62 31.63(%)	6 24(%)	79 27.82(%)	35 23.49(%)	25 37.31(%)	28 31.82(%)	235
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問8-2 補問 選択肢11

問8-2 補問 選択肢⑪ その他（具体的に）	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	193 98.47(%)	25 100(%)	270 95.07(%)	145 97.32(%)	62 92.54(%)	86 97.73(%)	781
○	3 1.53(%)	0 0(%)	14 4.93(%)	4 2.68(%)	5 7.46(%)	2 2.27(%)	28
合計	196	25	284	149	67	88	809

欠損値の度数 = 982

問9-1 (疼痛緩和の普及) <職場別に frequency を算出>

あなたは世界保健機構 (WHO) が作成した「WHO 方式癌疼痛治療法」をご存知ですか。  
(○は1つ)

問9-1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
あることを知っている	113 33.33(%)	9 10.98(%)	194 36.19(%)	93 36.33(%)	126 40.65(%)	61 35.06(%)	596
内容をある程度知っている	27 7.96(%)	25 30.49(%)	94 17.54(%)	25 9.77(%)	66 21.29(%)	21 12.07(%)	258
内容をよく知っている	5 1.47(%)	48 58.54(%)	24 4.48(%)	1 0.39(%)	12 3.87(%)	3 1.72(%)	93
知らない	194 57.23(%)	0 0(%)	224 41.79(%)	137 53.52(%)	106 34.19(%)	89 51.15(%)	750
合計	339	82	536	256	310	174	1697

欠損値の度数 = 94

問9-2 (疼痛緩和の普及) <職場別に frequency を算出>

あなたは、モルヒネの使用にあたって、有効性と副作用について、患者にわかりやすく具体的に説明することができますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

問9-2	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
説明できる	21 6.18(%)	63 75.9(%)	104 19.29(%)	36 14.06(%)	86 27.39(%)	31 17.32(%)	341
多少は説明できる	213 62.65(%)	20 24.1(%)	376 69.76(%)	165 64.45(%)	188 59.87(%)	102 56.98(%)	1064
説明できない	70 20.59(%)	0 0(%)	50 9.28(%)	43 16.8(%)	31 9.87(%)	36 20.11(%)	230
その他	5 1.47(%)	0 0(%)	2 0.37(%)	2 0.78(%)	0 0(%)	0 0(%)	9
わからない	31 9.12(%)	0 0(%)	7 1.3(%)	10 3.91(%)	9 2.87(%)	10 5.59(%)	67
合計	340	83	539	256	314	179	1711

欠損値の度数 = 80

問11 (持続的植物状態の患者への延命治療)

では、あなたの担当している患者が持続的植物状態で治る見込みがない場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。(○は1つ)

問11	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
単なる延命医療であっても続けられるべきである	68 20(%)	2 2.47(%)	53 9.83(%)	32 12.5(%)	33 10.65(%)	23 13.29(%)	211
単なる延命医療はやめたほうがよい	180 52.94(%)	57 70.37(%)	363 67.35(%)	163 63.67(%)	196 63.23(%)	97 56.07(%)	1056
単なる延命医療はやめるべきである	27 7.94(%)	14 17.28(%)	51 9.46(%)	28 10.94(%)	23 7.42(%)	22 12.72(%)	165
わからない	65 19.12(%)	8 9.88(%)	72 13.36(%)	33 12.89(%)	58 18.71(%)	31 17.92(%)	267
合計	340	81	539	256	310	173	1699

欠損値の度数 = 92

問11 補問1 (延命医療の中止の判断)

(問11で2か3をお選びの方に) この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような時期に中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

問11 補問1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
意識不明の状態から回復しないと診断されたとき	50 24.15(%)	9 12.86(%)	55 13.32(%)	31 16.23(%)	35 16.06(%)	26 22.03(%)	
生命の助かる見込みがないと診断されたとき	45 21.74(%)	10 14.29(%)	95 23(%)	46 24.08(%)	71 32.57(%)	20 16.95(%)	
生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき	106 51.21(%)	45 64.29(%)	245 59.32(%)	108 56.54(%)	101 46.33(%)	70 59.32(%)	
わからない	6 2.9(%)	6 8.57(%)	18 4.36(%)	6 3.14(%)	11 5.05(%)	2 1.69(%)	
合計	207	70	413	191	218	118	

問11 補問2 (延命医療の実質的定義)

(問11で2か3をお選びの方に) この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような時期に中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(○は1つ)

問11 補問2	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
人工呼吸器等、生命の維持のために特別に用いられる治療は中止してよいが、それ以外の治療 (床ずれの手当や点滴等) は続ける	157 81.77(%)	53 79.1(%)	350 89.74(%)	165 90.66(%)	174 84.47(%)	95 85.59(%)	994
一切の治療は中止してよい	20 10.42(%)	6 8.96(%)	16 4.1(%)	12 6.59(%)	17 8.25(%)	12 10.81(%)	83
その他	0 0(%)	6 8.96(%)	9 2.31(%)	2 1.1(%)	8 3.88(%)	2 1.8(%)	27
わからない	15 7.81(%)	2 2.99(%)	15 3.85(%)	3 1.65(%)	7 3.4(%)	2 1.8(%)	44
合計	192	67	390	182	206	111	1148

欠損値の度数 = 643

問11 補問3 (延命医療 basic care の意識) <職場別に frequency を算出>

(問11で1をお選びの方に) 続ける必要があるとお考えになる医療はどれですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)

問11 補問3 選択肢1

問11 補問3 選択肢① 経管栄養 (異ろうを含む)	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
×	115 73.25(%)	39 73.58(%)	222 64.16(%)	92 56.44(%)	102 60(%)	57 61.29(%)	627
○	42 26.75(%)	14 26.42(%)	124 35.84(%)	71 43.56(%)	68 40(%)	36 38.71(%)	355
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢2

問11 補問3 選択肢② 点滴 (維持輸血)	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床 (緩和ケア病棟を除く)	療養病床 (介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他 (具体的に)	
×	67 42.68(%)	28 52.83(%)	115 33.24(%)	75 46.01(%)	88 51.76(%)	44 47.31(%)	417
○	90 57.32(%)	25 47.17(%)	231 66.76(%)	88 53.99(%)	82 48.24(%)	49 52.69(%)	565
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢3

問11 補問3 選択肢③ 中心静脈経由の高カロリー輸血	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	135 85.99(%)	50 94.34(%)	291 84.1(%)	134 82.21(%)	151 88.82(%)	84 90.32(%)	845
○	22 14.01(%)	3 5.66(%)	55 15.9(%)	29 17.79(%)	19 11.18(%)	9 9.68(%)	137
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢4

問11 補問3 選択肢④ 自動血圧計による血圧監視	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	93 59.24(%)	51 96.23(%)	244 70.52(%)	116 71.17(%)	133 78.24(%)	73 78.49(%)	710
○	64 40.76(%)	2 3.77(%)	102 29.48(%)	47 28.83(%)	37 21.76(%)	20 21.51(%)	272
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢5

問11 補問3 選択肢⑤ 心電図モニター	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	81 51.59(%)	50 94.34(%)	168 48.55(%)	85 52.15(%)	118 69.41(%)	53 56.99(%)	555
○	76 48.41(%)	3 5.66(%)	178 51.45(%)	78 47.85(%)	52 30.59(%)	40 43.01(%)	427
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢6

問11 補問3 選択肢⑥ 気管切開	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	155 98.73(%)	50 94.34(%)	330 95.38(%)	160 98.16(%)	163 95.88(%)	92 98.92(%)	950
○	2 1.27(%)	3 5.66(%)	16 4.62(%)	3 1.84(%)	7 4.12(%)	1 1.08(%)	32
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢7

問11 補問3 選択肢⑦ 心臓マッサージ	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	156 99.36(%)	51 96.23(%)	337 97.4(%)	158 96.93(%)	168 98.82(%)	90 96.77(%)	960
○	1 0.64(%)	2 3.77(%)	9 2.6(%)	5 3.07(%)	2 1.18(%)	3 3.23(%)	22
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢8

問11 補問3 選択肢⑧ 昇圧剤の投与	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	152 96.82(%)	51 96.23(%)	317 91.62(%)	149 91.41(%)	163 95.88(%)	87 93.55(%)	919
○	5 3.18(%)	2 3.77(%)	29 8.38(%)	14 8.59(%)	7 4.12(%)	6 6.45(%)	63
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢9

問11 補問3 選択肢⑨ 床ずれの手当て	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	7 4.46(%)	4 7.55(%)	13 3.76(%)	2 1.23(%)	6 3.53(%)	6 6.45(%)	38
○	150 95.54(%)	49 92.45(%)	333 96.24(%)	161 98.77(%)	164 96.47(%)	87 93.55(%)	944
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢10

問11 補問3 選択肢⑩ 抗生物質の投与	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	130 82.8(%)	47 88.68(%)	278 80.35(%)	123 75.46(%)	144 84.71(%)	74 79.57(%)	796
○	27 17.2(%)	6 11.32(%)	68 19.65(%)	40 24.54(%)	26 15.29(%)	19 20.43(%)	186
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢11

問11 補問3 選択肢⑪ 輸血	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	153 97.45(%)	50 94.34(%)	336 97.11(%)	159 97.55(%)	165 97.06(%)	92 98.92(%)	955
○	4 2.55(%)	3 5.66(%)	10 2.89(%)	4 2.45(%)	5 2.94(%)	1 1.08(%)	27
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢12

問11 補問3 選択肢⑫ 全身清拭	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	19 12.1(%)	4 7.55(%)	21 6.07(%)	5 3.07(%)	11 6.47(%)	8 8.6(%)	68
○	138 87.9(%)	49 92.45(%)	325 93.93(%)	158 96.93(%)	159 93.53(%)	85 91.4(%)	914
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢13

問11 補問3 選択肢⑬ 喀痰吸引	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	30 19.11(%)	7 13.21(%)	29 8.38(%)	16 9.82(%)	18 10.59(%)	14 15.05(%)	114
○	127 80.89(%)	46 86.79(%)	317 91.62(%)	147 90.18(%)	152 89.41(%)	79 84.95(%)	868
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢14

問11 補問3 選択肢⑭ 留置カテーテル導入	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟（緩和ケア病棟を除く）	療養病床（介護療養型医療施設を含む）	訪問看護ステーション	その他（具体的に）	
×	61 38.85(%)	31 58.49(%)	117 33.82(%)	71 43.56(%)	68 40(%)	41 44.09(%)	389
○	96 61.15(%)	22 41.51(%)	229 66.18(%)	92 56.44(%)	102 60(%)	52 55.91(%)	593
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢15

問11 補問3 選択肢⑤ 眼の乾燥防止	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
×	66 42.04(%)	7 13.21(%)	64 18.5(%)	52 31.9(%)	39 22.94(%)	30 32.26(%)	258
○	91 57.96(%)	46 86.79(%)	282 81.5(%)	111 68.1(%)	131 77.06(%)	63 67.74(%)	724
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問11 補問3 選択肢16

問11 補問3 選択肢⑥ 酸素吸入	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
×	81 51.59(%)	23 43.4(%)	125 36.13(%)	63 38.65(%)	75 44.12(%)	44 47.31(%)	411
○	76 48.41(%)	30 56.6(%)	221 63.87(%)	100 61.35(%)	95 55.88(%)	49 52.69(%)	571
合計	157	53	346	163	170	93	982

欠損値の度数 = 809

問14-1 (リビングウィル、事前指示について)

「治る見込みがなく、死期が近いときには単なる延命医療を拒否することをあらかじめ書面に記しておき、がんの末期などで実際にそのような症状になり、本人の意思を直接確かめられないときはその書面に従って治療方針を決定する。」(リビングウィル)という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

問14-1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病棟(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
賛成する	222 64.91(%)	72 87.8(%)	440 81.33(%)	186 71.81(%)	244 78.71(%)	137 76.97(%)	1301
患者の意思の尊重という考え方には賛成するが、書面にまでする必要がない	65 19.01(%)	7 8.54(%)	60 11.09(%)	42 16.22(%)	46 14.84(%)	18 10.11(%)	238
賛成できない	8 2.34(%)	0 0(%)	7 1.29(%)	2 0.77(%)	0 0(%)	6 3.37(%)	23
その他	7 2.05(%)	1 1.22(%)	8 1.48(%)	5 1.93(%)	6 1.94(%)	2 1.12(%)	29
わからない	40 11.7(%)	2 2.44(%)	26 4.81(%)	24 9.27(%)	14 4.52(%)	15 8.43(%)	121
合計	342	82	541	259	310	178	1712

欠損値の度数 = 79

問 14-1 補問1 (リビングウィル、事前指示について)

(問 14-1 で 1 をお選びの方に) 書面による本人の意思表示という方法について、わが国ではどのように扱われるのかが適切だとお考えですか。(○は1つ)

問14-1 補問1	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
そのような書面が有効であるという法律を制定すべきである	86 38.74(%)	24 33.33(%)	198 45.21(%)	85 45.7(%)	115 47.13(%)	59 43.07(%)	567
法律を制定しなくても、医師が家族と相談の上その希望を尊重して治療方針を決定する	131 59.01(%)	47 65.28(%)	232 52.97(%)	100 53.76(%)	123 50.41(%)	73 53.28(%)	706
その他	1 0.45(%)	1 1.39(%)	2 0.46(%)	1 0.54(%)	2 0.82(%)	3 2.19(%)	10
わからない	4 1.8(%)	0 0(%)	6 1.37(%)	0 0(%)	4 1.64(%)	2 1.46(%)	16
合計	222	72	438	186	244	137	1299

欠損値の度数 = 492

問 14-3 (代理人による意思表示)

事前に本人の意思の確認ができなかった患者の場合、「家族や後見人が延命医療を拒否したら、それを本人の意思の代わりとして治療方針などを決定すればよい」(代理人による意思表示) という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

問14-3	職場						合計
	診療所	緩和ケア病棟	一般病床(緩和ケア病棟を除く)	療養病床(介護療養型医療施設を含む)	訪問看護ステーション	その他(具体的に)	
それでよいと思う	88 25.96(%)	26 32.5(%)	154 28.47(%)	73 28.29(%)	83 26.77(%)	54 30.17(%)	478
そうせざるを得ないと思う	102 30.09(%)	31 38.75(%)	206 38.08(%)	95 36.82(%)	111 35.81(%)	55 30.73(%)	600
そうは思わない	14 4.13(%)	3 3.75(%)	20 3.7(%)	15 5.81(%)	16 5.16(%)	14 7.82(%)	82
その時の状況による	119 35.1(%)	17 21.25(%)	154 28.47(%)	70 27.13(%)	88 28.39(%)	50 27.93(%)	498
その他	1 0.29(%)	0 0(%)	0 0(%)	0 0(%)	1 0.32(%)	0 0(%)	2
わからない	15 4.42(%)	3 3.75(%)	7 1.29(%)	5 1.94(%)	11 3.55(%)	6 3.35(%)	47
合計	339	80	541	258	310	179	1707

欠損値の度数 = 84